

4 ホームユース・カーネーションの増収技術

1 ねらいと成果

最近、スーパーマーケットや農協の直売所などでは、300円前後の花束が、よく売れている。これは、玄関やリビングに花を飾り、気軽に楽しむ人たちが増え、家庭用いわゆる「ホームユース」需要が伸びていることを示している。ホームユース切り花の規格には、80~90cmの長さは必要ない。扱いやすい50cm程度の長さで十分である。また、切り花長が短いと出荷用のダンボール箱の小型化や花束加工時に発生する茎葉残さを減らすことができ、流通時のゴミの発生も少なくなる。

2 内容

とりわけ花色が豊富で日持ちが長いカーネーションは、ホームユースに適している(図1)。さて、カーネーションを短い切り花で収穫し続けると、どうなるか。そこで、淡路地域の代表的な赤の大輪3品種を7月9日に定植して、常に50cmの長さで短茎収穫し、1番花を7節、2番花を9節で収穫する従来法(長茎収穫法、切り花長60~80cm)と比較した(図2)。その結果、早生の「フランススコ」で

は17%、中生の「エクセリア」では20%収量が増加した(図3)。これはカーネーションの高い節から発生する側枝ほど、節数が少なく、早く開花する性質(頂芽優勢)により、図4のように、短く収穫するほど、2番花の開花が早まり、3番花も収穫できたためである。一方で晩生の「アメリカ」では、短茎収穫の収量が長茎収穫より収量が9%減少した。このことから短茎収穫には早生系で側枝の発生が多く、伸長性が高く節間長が長い品種が適していると考えられる。この増収効果により、ホームユース規格カーネーションを手頃な価格で消費者に供給することが可能となる。

3 今後の課題

現状の市場でのせり取引では、残念ながら「長い切り花ほど高く売れる」という構造は変わっていない。そこで、短茎切り花を有利に販売するには、市場やホームユース切り花専門店と契約取引を進めるなど、栽培と同時に営業努力も必要と考えられる。

山中 正仁(淡路農技・農業部)
(問い合わせ先 電話: 0799 - 42 - 4881)



図1 花色が豊富で日持ちがよいカーネーションはホームユースに最適



図2 ホームユース規格「短茎」上が50cmの短茎規格、下が80cmの従来規格

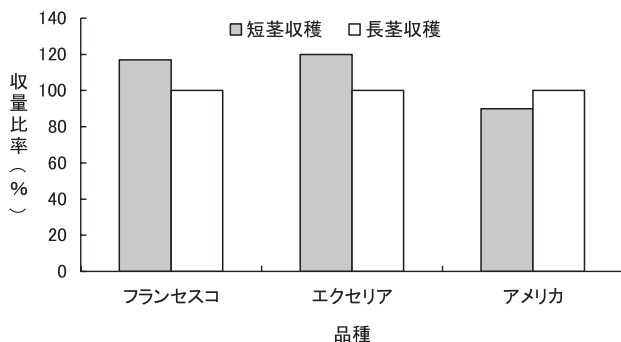


図3 短茎収穫法とカーネーションの収量
長茎収穫法を100とする

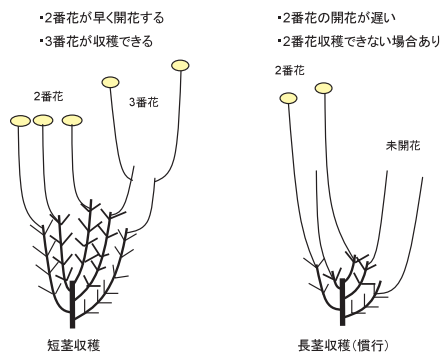


図4 短茎収穫法の増収効果の模式図